

半導体漫遊記

湯之上隆

164

8日付3面の「半導体漫遊記」の見出しに誤りがありました。関係者にお呼びして、正しい見出しとともに再掲載します。

8日付3面の「半導体漫遊記」の見出しに誤りがありました。関係者にお呼びして、正しい見出しとともに再掲載します。

東芝とWDの幹部は猛省を

四日市工場 訴訟合戦 技術者間には不協和音なし

い。というのは、サンディスク(株)の小池淳義社長は、日立の半導体事業部出身であり、自分の側近を日立出身の小池一派で固めている。つまり、四日市工場は、東芝と旧日立グループによって運営されているのである。かつて東芝と日立は、東芝側の技術者法は、自然に東芝流に従うということになり、あまり大きな反目はないのだろうと考えている。

つまり、四日市工場内では東芝とサンディスクが、経営幹部の間ではほぼ100%東芝出身者である。一方、サンディスクの技術者は、ピュアなサンディスクのケンカにはせず、また

東芝メモリの売却を巡って、東芝と米ウエスタンデジタル(WD)が激しい訴訟合戦に突入している。現在両社は4件の裁判を提起しており、WDが米カリフォルニア州の上級裁判所に「東芝メモリの売却は契約違反」と訴えた2回目の審理が7月28日に行われ、売却差し止めの仮処分が出るのか否かに注目が集まっている。

あるのだろうか(図1)。まず、四日市工場を運営しているのは、WD傘下の米サンディスクの日本法人であるサンディスク株式会社(一部WD)の幹部と、東芝メモリの幹部である。

は、技術開発やDRA Mビジネスを巡って、丁々発止と遭り合った間柄である。そのライバルだった者たちが、同一工場を共同経営している。仲が良からうはずがない。

では、技術者同士はどうなのだろうか。筆者が見聞きした限りでは、開発や生産方面の結果、開発や生産方面

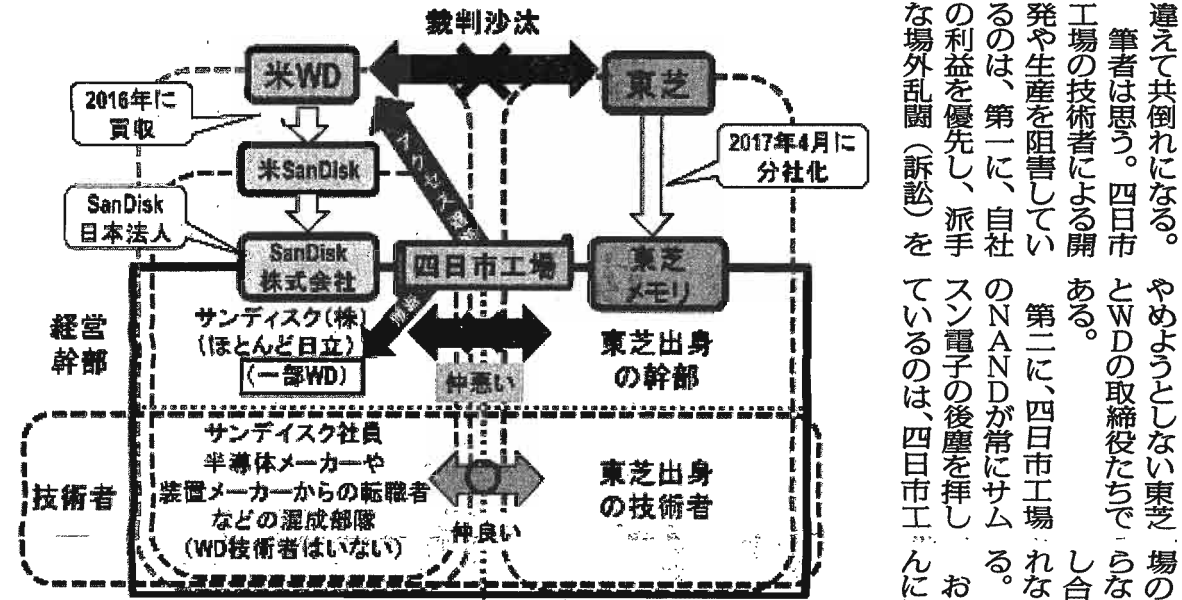


図1 東芝と米WDの誰と誰がケンカしているのか

違えて共倒れになる。筆者は思う。四日市とWDの取締役たちで工場を技術者による開発や生産を阻害しているのは、第一に、自社の利益を優先し、派手な場外乱闘(訴訟)をやるのは、四日市工場にしろよ!お前たちが、四日市工場のNANDビジネスを、日本の半導体産業を、そして、NANDを使うすべてのエレクトロニクス産業を、ぶち壊しているんだぞ。君たちは、猛省し、すぐにでも態度を改めるように忠告したい。(微細加工研究所・所長)